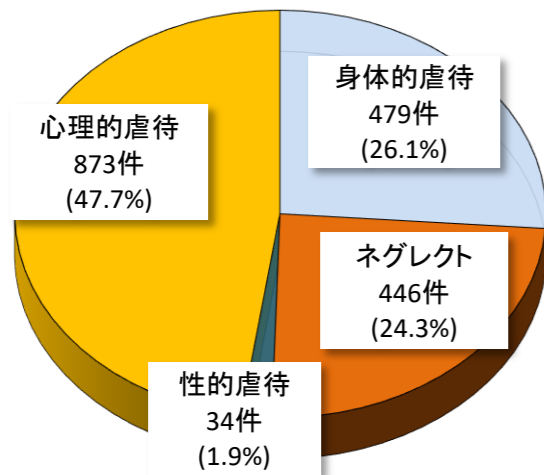
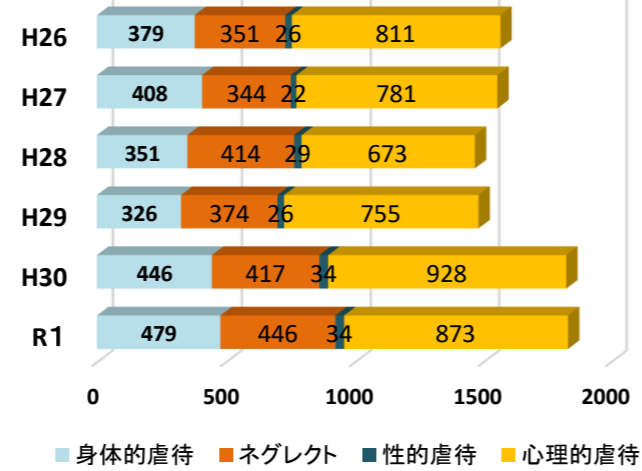


虐待の種類

R1種類別件数内訳



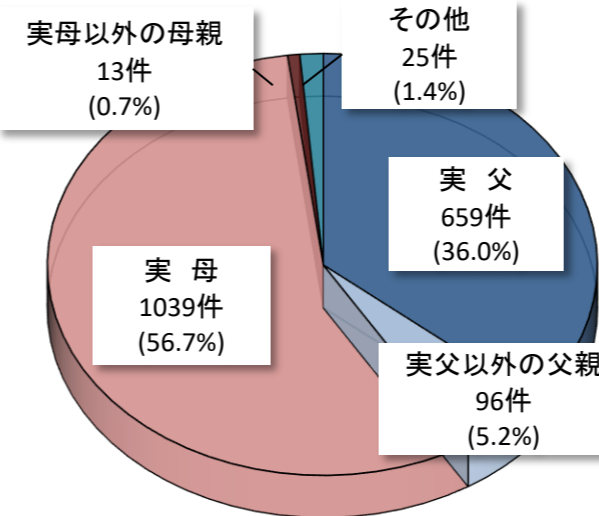
種類別件数の推移



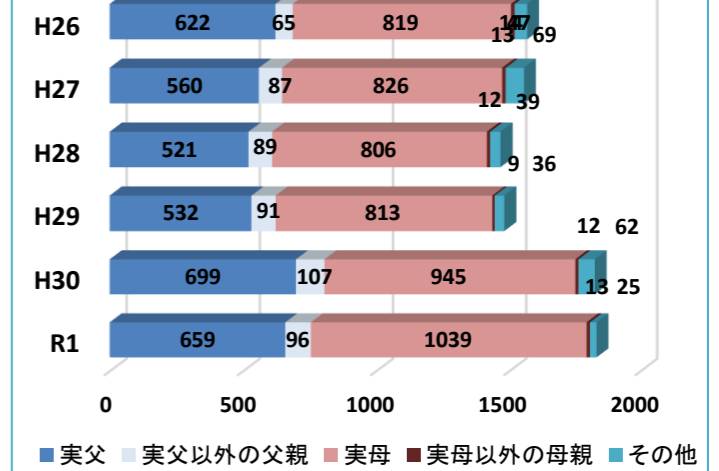
「心理的虐待」が最も多く、次いで「身体的虐待」「ネグレクト」の順に多い。前年度と比較すると、身体的虐待（33件増、7.4%増）とネグレクト（29件増、7.0%増）が増加し、心理的虐待（55件減、5.9%減）が減少している。心理的虐待については減少したものの、依然として全体の半数近くを占めており、その傾向は前年度と同様である。

主な虐待者

R1主な虐待者の件数内訳



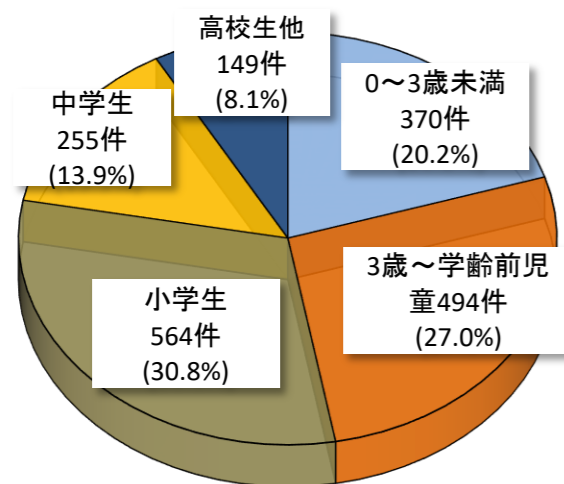
主な虐待者の推移



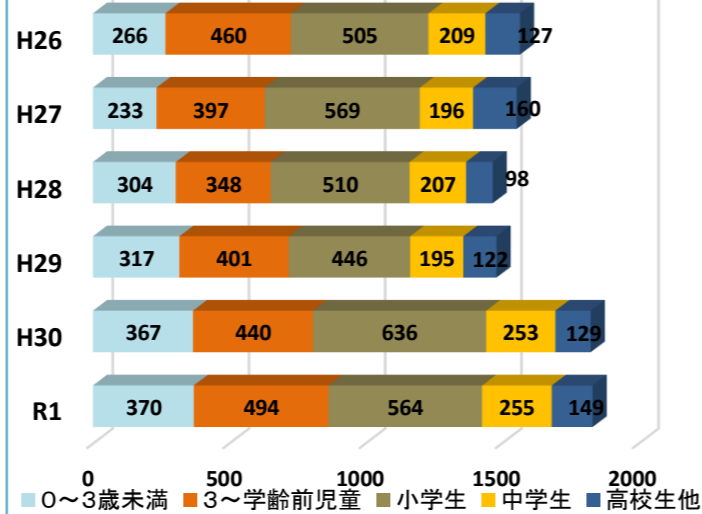
「実母」が全体の半数以上を占め、「実父」と合わせた「実親」の割合が、全体の約9割を占めている。前年度と比べて割合に大きな変化はなく、「実親」のうち「実母」が占める割合が最も多い。

被虐待児の年齢

R1年齢別件数内訳



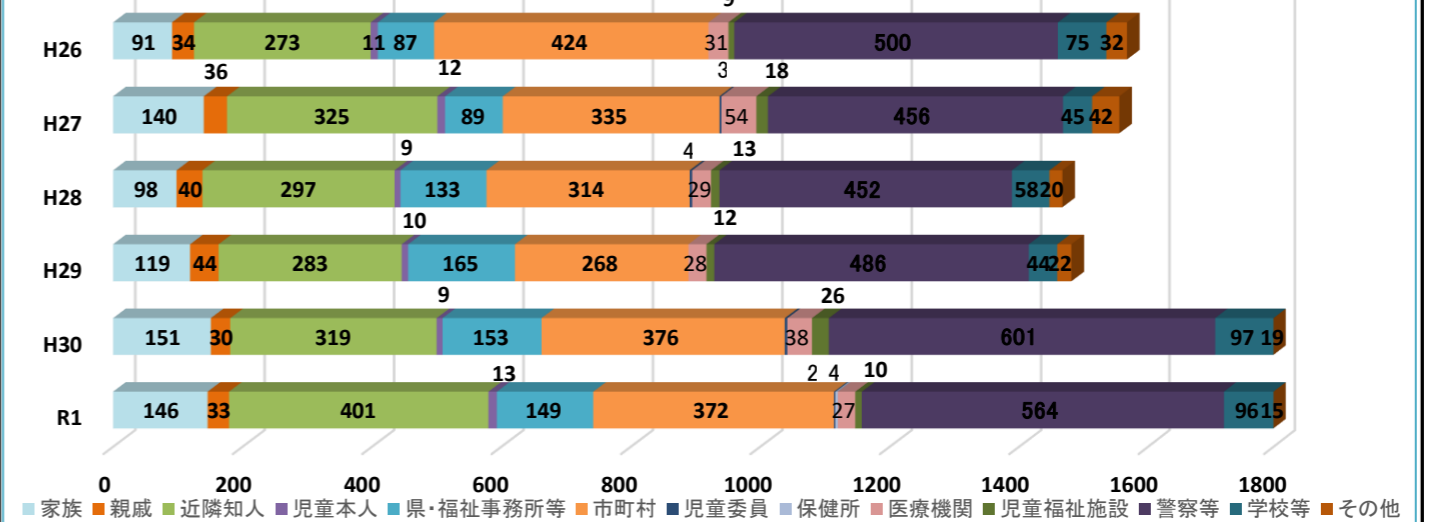
年齢別件数の推移



前年度と比較すると、「3歳～学齢前児童」が54件増（12.3%増）、「高校生他」が20件増（15.5%増）と増加する一方で、「小学生」が72件減（11.3%減）と減少している。

虐待通告の経路

種類別件数の推移



関係機関からの通告では「警察等」「近隣知人」「市町村」の順に多い結果となった。特に「近隣知人」からの通告は82件増（25.7%増）と大幅に増加している。